

# 伊藤さん、社会保障への信頼 どう取り戻す?



伊藤 達也さん

首相補佐官

小泉内閣で金融副大臣として金融再生プログラムのとおりまとめにあたった後、金融相などを歴任。46歳。

## 成長国家の姿を描く

伊藤達也元金融相が社会保障担当の首相補佐官に就任した。福田首相肝いりの社会保障国民会議を裏方で支える役回りだ。与党内からは「改革派の官邸入り」と警戒の声もあがる。年金記録問題を始め、社会保障制度に対する国民の信頼は大きく揺らいでいる。信頼回復の糸口は見つかるのか。伊藤氏に聞いた。

### ざっくばらん

▼社会保障国民会議が始まりました。を超えたものになるか

「国民会議という名前には、総理の強い思いがある。国民と双方向で議論できる工夫をしなくてはいいけない。インターネットでの対話があるかもしれない。委員を固定することなく、テーマによってはいろんな方々に参加していただくことも必要だ。厚生労働省の所管

「制度間の重複を見直しながら、政府に対する信頼を取り戻す。特定のライフスタイル、生き方が不公平な扱いを受けないようにする。次の世代につけを先送りしない」

▼参加しなかった民主党には、今後呼びかけますか。

「国民の広い対話の中に、政党関係者がいることはいい。むしろ非常に大切だと思う。いつでも門戸は開いている」

▼負担増も議論の対象になりますか。

「日本経済がどう成長するのか、行政の効率化をどう進めるのかで決まってくると思う」

▼消費税は。「私が個別の税制についてコメントする立場はない。総理のご指示をいただきながら、負担と給付の在り方について議論していく」

▼年金記録問題の名寄せ作業の期限が3月末に迫っています。「舛添厚生労働相のもとで統合作業が一生懸命行われている。まず、可能な限りサポートしたい。そのうえで3月までの作業でも統合できずに残る記録の問題がある。より具体的な作業スケジュールをつくることが必要だ」

▼自民党内には、中川元幹事長や竹中元総務相に近い伊藤補佐官の就任で「小泉構造改革路線に戻るのではないか」という反発があります。「いま日本をとりまく環境は大きく変わろうとしている。活力と誇りのある国造りをやっていきたい。もう一度日本が成長するエネルギーを取り戻していく、成長国家日本としての姿を描きたい。他方、いろんなご意見は承知している。私も真摯に受け止める」

社会保障国民会議の今後の検討のため、福田首相が設置。1月に初会合が開かれた。メンバーは塩川正十郎元財務相や奥田碩・前日本経団連会長、高木剛連合会長ら15人。座長は吉川洋東大院教授。「雇用・年金」「医療・介護・福祉」「少子化・仕事と生活の調和」の3つの分科会に分かれ、6月ごろに中間報告、9月に最終報告をまとめる予定だ。

「5年間に11兆〜14兆円の歳出を削減し、プライマリーバランスの黒字化を実現していく枠組みは決めている。堅持して、改革を着実に進めていくことが大切だ」

「いま日本をとりまく環境は大きく変わろうとしている。活力と誇りのある国造りをやっていきたい。もう一度日本が成長するエネルギーを取り戻していく、成長国家日本としての姿を描きたい。他方、いろんなご意見は承知している。私も真摯に受け止める」

（聞き手・円満亮太）